

会議録

- 1 会議名 第30期 第5回北九州市スポーツ推進審議会
- 2 議題等 (1) 議題
ア 令和5年度主要事業の報告について
(2) 報告
ア 北九州市スポーツ推進計画素案の策定及び市民意見の募集について
イ 国際スポーツ大会等の誘致活動状況について
- 3 開催日時 令和6年10月28日(月) 14:30～16:00
- 4 開催場所 市役所庁舎3階 特別会議室A
- 5 出席者 委員9名、事務局(北九州市)12名 計21名

【審議会委員】 秋山 和徳(福岡県高等学校体育連盟副会長)
有延 忠剛(北九州市障害者スポーツセンター所長)
塩川 久美(北九州市中学校体育連盟)
酒井 孝子(福岡県女子体育連盟理事長)
調 弘誓(NHK北九州放送局長)
長戸 操(門鉄広告社代表取締役社長)
久澄 喜裕(公益財団法人北九州市スポーツ協会事務局長)
船津 京太郎(九州共立大学教授)
山本 浩二(北九州市立大学准教授)
※五十音順

【事務局】 井上 保之(都市ブランド創造局長)
濱田 孝洋(都市ブランド創造局スポーツ部長)
大江 晃(都市ブランド創造局スポーツ振興課長)
川合 浩治(都市ブランド創造局スポーツ施設担当課長)
小島 邦裕(都市ブランド創造局インターハイ担当課長)
三輪 真也(都市ブランド創造局スポーツコミッション担当課長)
遠近 泰史(都市ブランド創造局スポーツイベント担当課長)
ほか5名が出席

6 議題内容

(1) 議題

ア 令和5年度主要事業の報告について

事務局より説明を行い、下記のとおり、質疑応答があった。

委員A：8ページの「身近なスポーツ施設の充実」で、「体育館空調設備整備事業」とあり、実績の表の上の段が「実施設計」、下の段が「空調工事」と分かれているが、令和5年度の空調工事は、「香月スポーツセンター」のみで行ったということか。

事務局A：行政の予算の仕組み上、まず予算を取って設計に着手し、翌年度に工事を行うため、基本的には1年ずつ設計と工事がずれていくようになっている。この表で説明すると、令和4年度に「香月スポーツセンター」の設計を行い、翌年度に工事ということになっており、同様に令和5年度に実施設計を行った「小倉北体育館」「大庭産業アリーナ」「的場池体育館」が、今年度は工事に移っている。全体の計画としては、基本的に3館ずつ、9館で空調設備を設置する予定になっている。補足すると、「若松体育館等改修事業」も同様に、既存の体育館に空調設備を後から設置する事業で、予算上は別の事業であるが中身は同じものであり、3館ずつ、3ヵ年で9館に空調設備を設置する計画としている。

委員B：総合型地域スポーツクラブの会員数が毎年減少しているが、どういった理由か。また、事業は続けていくのか。

事務局B：総合型地域スポーツクラブであるが、少子高齢化の影響を大きく受けている。子どもから高齢者まで幅広い年齢の方が属しているが、高齢者が辞めた後、入ってくる子どもが少なくなっているという現象が起きており、その影響で会員数が減っているのが実情。事業は今後も継続し、活動時の経費などの支援をしていく。

委員B：4ページの「部活動の支援・強化」の「部活動振興事業」において、「部活動生徒の部活動に対する満足度」が減少しているが、どういった理由か。

事務局C：満足度が下がっているのは、少子化がかなり深く関わっている。例えば、「野球部に入ったけれども、部員が5人しかいない」や「やりたい部活動があるが、学校にその部活動がない」といった形で、少子化によってやりたい部活動ができない子どもたちが少しずつ増えてきているといったところが、満足度にも表れているのではないかと考える。

委員C：4ページの「部活動の支援・強化」の「部活動振興事業」において、部活動指導員であるが、北九州市は何校程度に配置できているのか。

事務局C：部活動の指導員は会計年度任用職員に務めてもらっている。人数は、週6時間が20名で、週11時間が10名の計30名。学校数（中学校）は、複数名配置もあるため17校である。

委員D：週6時間と週11時間の違いを教えてください。

事務局C：現在、部活動のガイドラインにおいて、平日が1日2時間程度、休日が土日どちらかで3時間程度とされている。そのため、週6時間の部活動指導員は、1日2時間程度のものを週3日、週11時間の部活動指導員は、平日に4日と、休日の1日で11時間としている。時間に差をつけている理由としては、正規職員においては、労働基準法の問題などもあり、週11時間の勤務が難しい職員にも対応している。また、予算のこともあり、できる限り人数を増やすことで対応している。

委員D：八幡東体育館の空調工事の予定がない理由を教えてください。

事務局A：現場へは予算が付いた後に正式に通知するため周知できていなかった可能性はあるが、先ほど説明した、3ヵ年で9館の空調設備を設置する計画の中に八幡東体育館も含まれている。

(2) 報告

ア 北九州市スポーツ推進計画素案の策定及び市民意見の募集について
事務局より報告を行い、下記のとおり、会長代理の補足説明及び委員による意見・質疑応答があった。

会長代理：報告1「北九州市スポーツ推進計画」について、策定検討会の座長としての立場から、補足する。

8月23日に行われた策定検討会において、活発な意見交換が行われた。その主な意見をご紹介します。

1つ目に、『「稼ぐ」というベクトルは方針Iに深く関わる。市のビジョンに「稼げるまち」の定義として、「市内企業の売上げアップと企業の創出」と示されていた。その文言を素案の中で説明すれば、誤解が生じず、ビジョンと計画の関連がより明確になる』という意見があった。

2つ目に、『健康だけを目的にスポーツはしない。満足感、達成感、高揚感などの言葉を使ったほうが万人に当てはまる。スポーツの価値が非常に多様化しているため、表現を検討してもらいたい』という意見があった。

これらの意見を踏まえ、素案が策定された。

委員A：大規模国際スポーツ大会等の誘致・開催ということで、ネーションズリーグが北九州市で開催できたことに大変感動している。今、パルクールのボランティアが足りていない。そこで、1日だけでも、半日だけでも、何人でもいいからボランティアに協力してほしいと言われている。

やはり、国際スポーツ大会をするためには、ボランティアの盤石な組織などが必要ではないかと考える。そのような組織などがあれば、大会の応援ができると思うので、そのような組織や仕組みを応援して、また一緒に考えていきたい。

事務局A：パルクールのボランティアについて、今からでもご協力いただけるようであれば、是非お願いしたい。

ボランティアの仕組みの話が出たが、北九州マラソンでもボランティアの研修に取り組んでいる。ボランティアを育成する仕組みなどを、北九州マラソンのみに留まらず、世界選手権のような大きな国際大会まで広げていかなければならないと話している。

北九州市は若者を一番応援するまちということで取り組んでおり、若者にとっても、ボランティアをすることで様々なスキルや経験などが身につくことは非常に良いことではないかと考えているので、積極的に取り組んで参りたい。

会長代理：計画の4つの目標値の達成度の評価はどのように行うのか。

事務局B：4つの目標値の達成度は何らかの形で評価をしなければならないと考えている。

議題1で説明した主要事業は中身が変わっていくため、どのような形で評価していくか、フォローの仕方も含めて考えて参りたい。

イ 国際スポーツ大会等の誘致活動状況について
概要について説明を行い、質問事項はなかった。

7 その他 傍聴者なし

8 問い合わせ先 都市ブランド創造局スポーツ部スポーツ振興課企画係
電話番号 093-582-2395